

## 〈解答〉

- ① 1 (1) 白神  
(2) シラス  
(3) ア  
(4) 過疎  
(5) エ

配点 各2点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 (1) 白神山地は、青森県と秋田県の県境の西部に広がる山地で、日本最大のぶな原生林があり、1993年、世界自然遺産に登録された。
- (2) 九州南部に広がるシラスは、栄養分が少なく水もたくわえにくく、稲作に適さないため、南部では畑作や畜産が盛んである。近年では外国産の安い肉の輸入が増えており、にわとりや豚、牛などを飼育する畜産は、添加物や保存料などを使わない、安全で質の良い肉を生産してブランド化することで、対抗している。
- (3) 大分県は、火山の地熱を利用した発電が行われている。大分県の<sup>はっちようばる</sup>八丁原地熱発電所は日本最大級の発電量を誇る。イは火力発電の燃料となる石油の積み下ろしがしやすい千葉県、ウは豊富な水とダムで水力発電が行われる富山県、エは原子力発電所がある福井県である。
- (4) 若者を中心に都市部へ人口が流出し、過疎となった農村や山間部、離島では、学校や商店、病院、公共交通機関がなくなるなど、地域社会の維持が困難になっている地域も増えている。
- (5) 山形県は、県の中央部の山形盆地を中心に、夏の昼夜の気温差を生かした果樹栽培を営む農家が多い。なかでも、さくらんぼの「佐藤錦」や「紅秀峰」が有名で、高速道路や空港が整備されたことで、トラックや航空機で全国各地に出荷されるようになった。